

			被害の可能性			
			可能性が高い	可能性がある	可能性が低い	ほとんどない
		危険源にさらされる頻度	F 2		F 1	
		被害を回避できる可能性	P 2	P 1	P 2	P 1
被害の大きさ	重大災害	S 4	V	V	IV	III
	重傷	S 3	V	IV	III	III
	軽傷	S 2	IV	III	II	II
	すり傷災害	S 1	III	II	II	I

リスク評価基準とリスクレベル表

7) 対応する安全方策

危険性レベルに対応する安全方策は下表による。

(制御システムについては 8)、9) による)

保護方策								
	本質安全設計		安全防護		使用上の情報			⑧ 方策 取らない
リスク レベル	①リスク の除去	②リスク の低減	③ガー ド	④保護 装置	⑤警告 装置	⑥警告 表示	⑦取扱説 明書	
I	—	—	—	—	—	—	—	◎
II	○	○	○	○	○	○	◎	(○)
III	○	○	○	◎	(○)	(○)	(○)	
IV	○	○	○	◎	(○)	(○)	(○)	
V	○	○	○	◎				

リスクレベルと保護方策基準

注 1) ○印 : よりベターな方策で①、②、③・・・と上位のレベルから優先的に方策を検討すること

注 2) ◎印 : 最低限とすべき方策。残留リスクとしてユーザーに情報提供することにより、更なる保護方策がなくてもよい合理的に実現可能とする水準の方策であること

注 3) 警告表示、取扱説明書をリスク低減の手段に使ってはいけない

注 4) (○) 印 : 適切なリスク低減とはされない方策であるが、便益が期待される場合に限り受け入れられる。この判断は、一般にリスク低減が技術的に実行不可能、リスク低減コストが効果に対しきわめて不相応または得られる効果に対して小さい場合等があり、社内第三者（製品安全分科会が任命するセイフティアセッサー）の妥当性検証を得ること

8) 制御システムの安全関連部に対するカテゴリーの選択

JISB9705-1 : 2 0 0 0 /IS013849-1 付属書 B カテゴリー選択のための指針による。

9) 制御システム安全方策カテゴリー

JISB9705-1 : 2 0 0 0 /IS013849-1 カテゴリーの要求事項の要約による。

(2) リスクアセスメント結果の審査（審査責任者、承認者）